

## 第 101 回 (2026 年春季) 講演大会開催報告

2026 年 6 月 1 日 (月) と 2 日 (火) の二日間、第 101 回講演大会を東京科学大学大岡山キャンパス「西 9 号館デジタル多目的ホール」で開催し、無事終了いたしました。デジタル多目的ホールには、講演大会登録者として 166 名の発表者と聴講者が集い、活発な質疑応答がなされました。運営に関しましては、東京科学大学 小林研究室の皆様の御協力を得て、スムーズに運びました。

今回の講演大会では、河上・赤見記念講演：1 件、J セッション講演：15 件、一般講演：9 件、シンポジウムでの基調講演：1 件、依頼講演：6 件の発表がありました。

初日は、西本大会実行委員長の開会挨拶 (写真 1) に続いて 15 件の J セッションの講演があり、大学院、企業の講演者より、ステンレス鋼、マルテンサイト組織、TRIP 鋼、浸炭・窒化、プラズマ窒化、熱処理変形、ベイナイト組織、電炉材鋼板、疲労特性、ハイエントロピー合金、電子ビーム金属積層造形などに関する興味深い研究成果が発表されました。

昼食後には、企業等技術情報展示会への出展社 (株式会社堀場製作所、株式会社構造計画研究所、株式会社アイ・アール・システム、株式会社山本科学工具研究社、大阪冶金興業株式会社、株式会社アプロリンク、パルステック工業株式会社、株式会社ストルアス、Cronite Castings 社、日本溶融アルミニウムめっき協会、日本電子工業株式会社 (敬称略)) より技術情報展示内容の概要紹介が行われました (写真 2)。また、初日の午前と午後、二日目の午前には企業等技術情報展示見学にあわせてコーヒープレイクが催され大変盛況でした (写真 3)。

河上・赤見記念講演では、2024 年度の技術功績賞を受賞された (有) アリモテックの有本享三氏より「日本刀焼入れ反りの直感的な理解を目指して」と題して、日本刀が焼入れ過程で反る現象について、シミュレーションひずみ法によるメカニズムの理解、簡便なモデルによる直感的な理解などの視点から大変興味深いお話しを頂きました (写真 4)。

休憩をはさんで 2025 年度協会賞表彰式が行われ、三島名誉会長、奥宮会長より賞状、賞牌などが授与されました (写真 5～7)。続いて研究発表奨励賞の発表ならびに表彰式が行われ、大沼郁雄選考委員長より選考委員会での厳正なる審査で選ばれた、最優秀賞 1 件と優秀賞 2 件の研究発表奨励賞の発表があり、奥宮会長より賞状が授与されました (写真 8～11)。表彰式の最後には、技術育英賞受賞者 2 名による受賞講演が行われました。

[最優秀賞]: 九州大学 (院) 小松原 佑仁 氏

講演題目「鋼におけるベイナイト組織の不均一変形挙動」

[優 秀 賞]: 九州大学 (院) 佐藤 美菜 氏

講演題目「ボロン添加によるオーステナイト系ステンレス鋼の組織変化」

[優 秀 賞]: 東京科学大学 (院) 今泉 憲二 氏

講演題目「高炭素鋼マルテンサイトにおける焼割れき裂の三次元評価」



写真 1 西本実行委員長による開会挨拶



写真 2 企業等情報展示会出展社の紹介



写真 3 企業等技術情報展示会 & コーヒープレイク



写真 4 有本享三氏による河上・赤見記念講演



写真 5 栄誉賞受賞の古原忠先生(右), 三島名誉会長, 奥宮会長



写真 6 学術功績賞受賞の江村聡先生



写真 7 技術功績賞受賞の大沼一平氏



写真 8 研究発表奨励賞 最優秀賞の小松原佑仁氏



写真 9 同 優秀賞受賞の佐藤美菜氏

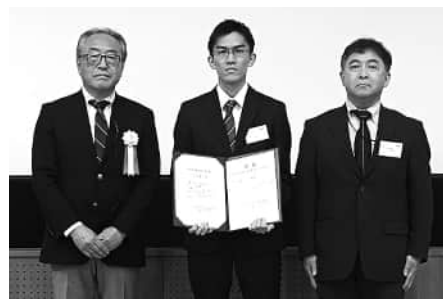


写真 10 同 優秀賞の今泉憲二氏



写真 11 大沼選考委員長, 奥宮会長とJセッション発表者の皆さん

初日の夕刻には、大岡山キャンパス内の「つばめテラス」にて懇親会が開催され、120 名が集いよい交流の機会となりました(写真 12)。

初日の午後と二日目午前には 9 件の一般講演があり、アセチレン真空浸炭、ヘテロ表面制御型浸炭焼入れ、曲がり反りコンテスト、急速加熱された Cr-Mo-V 鋼のメタラジー、高温熱処理用治具、機械加工材の熱処理変形、電磁波照射焼結、電炉材の窒素固定、Ti-Al 合金の電子ビーム粉末床溶融結合法などの講演発表に対し、活発な質疑が行われました。

二日目午前には中部支部主催のイノベーション活動として、39 チームが参加した第 5 回熱処理コンテストの総合結果が報告されました(写真 13)。今回は、表面硬さ 40HRC 以上とした S50C 鋼材にシャルピー衝撃試験を行い、その衝撃吸収エネルギーで競われました。優勝した株式会社小松製作所 生産技術開発センタ殿から取組みの紹介がありました。

二日目の午後には「金属造形材と熱処理の融合技術—製造現場を支える熱履歴・組織・性能制御」と題するシンポジウムが開催されました。基調講演では、東京都立大学の笈幸次先生より「高強度耐熱合金および高強度鋼の積層造形材に及ぼす熱処理と微量元素の役割」と題して、航空宇宙およびエネルギー分野で使用される Ni 基超合金 IN718 および析出硬化型ステンレス鋼 17-4PH 鋼を対象として、その粉末床溶融材、バインダージェット材の組織形成および機械的特性に及ぼす熱処理ならびに微量元素の影響について俯瞰的に講演頂きました(写真 14)。

依頼講演では、「レーザ積層造形 (L-PBF) のプロセスを利用した SKD61 金型鋼の組織制御」、「合金工具鋼の高速積層造形に関する研究 —造形条件が機械的性質に及ぼす影響—」、「レーザ粉末床溶融結合法が生み出す非平衡組織の熱処理による制御」、「レーザ粉末床溶融結合法による積層造形材の熱処理に伴う組織および機械的特性変化」、「AM 最適化設計 (DfAM)



写真 12 懇親会の様子



写真 13 中部支部主催 第5回熱処理コンテストの総合結果報告



写真 14 笥幸次先生によるシンポジウム基調講演



写真 15 黒田中部支部副支部長による次回大会の紹介と閉会の辞

～造形までの実例紹介」,「積層造形した人工衛星用構造体の高温環境における力学的信頼性評価」と題した6件の技術紹介講演があり,それぞれのテーマについて理解を深めることができました。

次回講演大会開催地を代表して鈴鹿工業高等専門学校黒田中部支部副支部長より第102回(2026年秋季)講演大会・中部支部30周年記念行事を2026年11月18日(水)～20日(金)の3日間,愛知県 豊田工業大学 豊田喜一郎記念ホールにて開催することが紹介され(写真15),二日間の講演大会を締めました。

本講演大会の企画・準備・実施に携わって頂きました全ての関係者に心よりお礼申し上げます。次回秋季講演大会・中部支部30周年記念行事でも,多くの方々の講演発表とご参加をお待ちしております。